

阿弥陀さまをおがむ子どもを育てる

お釈迦さまや親鸞さまに親しみを持つ

お子さんが親しみを持っているのは何でしょう。

いつも持ち歩くぬいぐるみやおもちゃだったり、何度聞いても飽きないお気に入りの絵本だったりします。お勧めしませんが、スマホを離さない子もいるかもしれません。

親しみとは距離ではなく距離感なのかなと思っています。

ある日、年長さんに問われました。「園長先生、阿弥陀さまを見たことあるの？」
笑顔で「あるよ」と応えると

「そんなのうそだよ」と言われてしまいました。

子どもたちの中で科学の心が育ち、「見える」世界がどんどん広がっていきます。なるほど、科学の目で阿弥陀さまは見えるのか？という質問だったのね。子どもたちの心を汲み取りきれませんでした。「あるよ」という私の言葉はこの子の中では嘘になってしまいます。反省するばかりです。

浄土真宗の仏教園ですから、阿弥陀さま、お釈迦さま、親鸞さまのお話を子どもたちに伝えま
す。まことの世界であるお浄土から私たちを見守って下さる阿弥陀さま。人の世で仏教の教えを
お聞き下さったお釈迦さま。そしてお釈迦さまから伝わった阿弥陀さまの教えを浄土真宗として
私たちに伝えて下さる親鸞さま。園の礼拝や行事で、子どもたちは手を合わせたり、お話を聞い
たり、歌をうたったりしています。

阿弥陀さま方は子どもたちにとって遠い存在ではなく、身近な存在であって欲しいのです。混
沌とした時代に、光のある方へ、温かな方へ、まことの方へ向かって生きていくのですよと、私
のすぐそばから、聞こえない声や見えないお姿で教えて下さいます。

まだ保育を勉強していなかった頃のお話です。僧侶として大学を卒業して地元に戻り、お寺の
幼稚園に就職したばかりの頃、送迎バスの運転をしていました。入園したばかりの女の子が乗っ
てきました。バスが発発した直後、バックミラー越しにその子は後ろを向いて大きく手を振って
いる姿が見えました。

「誰に手を振っているの」と尋ねると、彼女は「ようちえん」と応えてくれました。

「幼稚園は手を振らないよ」と返すと、「また明日も来てねって手を振ってるよ」と強い口調で
応えてくれました。当時は気づきませんでした。彼女がとても大切なことを教えてくれました。こ
れを恥ずかしい記憶ですが、今も私を支えてくれる記憶でもあります。子どもたちが親し
みを持ってくれた大切なものを大人として丁寧に受け止めたいですね。

私たちよりもっと広い世界で、多様な人たちと一緒に生きていくのが、私たちの子どもたち
です。自分中心に世界を見つめる科学の目が育つのはあたり前の成長だと思っています。自分を越え
て多くのいのちと「ともに生きますよ」と教えて下さる、阿弥陀さま、お釈迦さま、親鸞さまに
親しむ機会を園では用意しています。小さな手で手を合わせる姿を家庭と園とで大切にしてい
たいですね。

まことの保育の願い

